

平成28年度 地域密着型研究課題

No.	課題名	研究概要	研究期間
1	腸管出血性大腸菌O26を対象とした迅速・簡便な分子疫学解析法の検討	腸管出血性大腸菌O26による感染症や食中毒発生時に、その感染源・感染経路を解明するために行われる分子疫学解析検査について、その解析能力、迅速性、簡便性等の向上を目的とした検討を行い、より良い検査体制を構築することにより、健康被害の拡大を防止します。	H25～28
2	FPE培地を用いたと畜場でのstx 遺伝子の迅速スクリーニング検査法	stx 遺伝子を用いたと畜場での検査体制を確立します。迅速で精度の高いスクリーニング検査法を開発し、食肉の安全性を確保するとともに、感染症(人)由来の菌株との比較により、牛由来のEHECのリスクを検討します。	H27～29
3	ノロウイルス食中毒注意報・警報制度に係る環境水調査	県内の主な流域下水道への流入下水中におけるノロウイルス遺伝子量を定期的にモニタリングすることにより、各地域におけるウイルス汚染実態を調査します。また、発生動向調査(感染性胃腸炎患者数)との比較検討により、県内におけるノロウイルス感染リスクを評価します。	H27～29
4	GC-MSによる危険ドラッグ分析に関する検討	危険ドラッグに含まれる薬物は、ここ2～3年で急激に増加し、さらに構造類似体も存在するため、複数の異なる分析法によるデータに基づいて同定結果を導くことが必要です。そこで、昨年度導入したGC-MSによる危険ドラッグ分析について検討し、危険ドラッグに含まれる薬物のより確実な同定を目指します。	H28～29
5	地下水質の地域特性に関する研究	県内各地の地下水及び河川水の水質調査を行い、地下水汚染の分布状況、地盤沈下対策地域における地下水の流動状況等を解析し、各地域における地下水質の地域特性を明らかにします。	H25～28
6	空間放射線量の実態調査研究	岐阜県は、平野部から山間部までの多様な地質の影響によって、空間放射線量が一律でないと考えられます。そこで、各地の空間放射線量を測定し、地質との関連について調査・解析します。	H27～29
7	微小粒子状物質の成分に関する研究	行政検査で実施している微小粒子状物質(PM2.5)の成分分析の検査項目に、水溶性有機炭素を追加して成分分析を実施し、統計解析をすることで、発生源及びその寄与割合を推定します。	H28～30
8	食品アレルギーおよび花粉症抗原の分析法の開発と交差免疫に関する研究	増加傾向にあるアレルギー発症事例に対応するため、高感度質量分析器LC-MS/MSおよび専用の解析ソフトを活用し、果物などの特定原材料や花粉、ダニに含まれるアレルギー物質を高精度に定量分析する手法を開発します。さらに、食品アレルギー、口腔アレルギー症候群と花粉症、ハウスダストなどのアレルギー疾患の関連性について検討します。	H28
9	アジサイ、アマチャの中毒原因物質に関する研究	アジサイ属植物の摂食による食中毒事例について、原因物質の特定と、中毒事例の疫学情報に基づき、原因物質の最小発症毒素量を推定します。	H28～29
10	食品中の異物検査法の確立	素材ごとに顕微鏡による観察や、FTIR、SEM-EDSによる素材判定、質量分析器等による分析を行い、最適な検査工程を確立する。また、各機器についてライブラリの充実を図ります。	H27～29
11	糞便検体からの食中毒起因菌検出に関する研究	食中毒(疑い)事例発生時に、糞便検体から一度に多菌種が検出可能な反応系を構築し、食中毒(疑い)発生時に利用可能な検査法を確立します。	H27～29